

労働衛生工学と リスク管理

日本作業環境測定協会編

(社)日本作業環境測定協会
(TEL. 03-3456-0445)
B5判 / 237頁 / 定価3,150円



職場における安全と健康の確保のために、法令等に規定されているか否かによらず、事業者が自主的に職場のリスク要因を見極め、的確な対応をとる、いわゆる自律的管理の重要性が強調されている。しかし、近年の急速な技術革新および産業構造の変化等に伴い、労働の場にもさまざまな設備や機器、化学物質等が次々と導入され、また就業形態も仕事の仕方も多様化しているなかでは、自律的管理の実践も容易なことではない。

本書は、職場に存在する化学物質等の「化学的因子」、暑熱・寒冷環境、騒音・振動および放射線等の「物理的因子」、感染症等の「生物的因子」ならびにVDT作業、腰痛や照明などの労働衛生における「人間工学的課題」についてほぼ網羅し、それぞれが本来的に有する危険有害性(ハザード)を整理するとともに、労働者の健康に対する悪影響(リスク)およびリスク管理の方法等について各分野の専門家が基本から説き起こして最近の知

見まで、豊富な内容をコンパクトに、しかも読みやすくまとめている。

労働衛生の課題は実に広範であり、かつ専門的内容も多いが、現代の忙しい職場で、なかなか分厚い専門書を読んでいる時間がない衛生管理者、安全衛生担当者、産業医、産業保健スタッフの方々をはじめ、業種にかかわらず事業場で労働衛生に携わるの方々には、従来見あたらなかったタイプの待望の書と言ってよいであろう。また学生や行政関係者にも、リスク管理のほぼ全貌^{ぜんぼう}を効率よく理解するために好個の参考書となる。

日本作業環境測定協会は国際的によく知られている英国のオキュペイショナルハイジニスト、米国の認定インダストリアルハイジニストに相当する日本版ハイジニストを育てるため、認定制度を創設した。そして同協会では、英国、米国等の制度も認定を受けているハイジニストの国際的団体である国際労働衛生協会(IOHA)による認定を得るための準備を行っている。本書は、もともとこの制度による日本版ハイジニストのテキストとしての位置付けで編集されたものであり、この意味では、いわば世界標準を意識したものである。

本書が関係各位に広く活用され、職場における労働衛生管理の一層の推進および高度化に役立つことを希望するものである。

(北里大学名誉教授/中災防顧問 高田 勗)